

# 政府全体のEBPMの強化に向けた今後の 進め方について

令和7年8月19日

# 政府全体のEBPMの強化に向けて①

- 骨太方針2025において、政府全体のEBPMの強化のため、
  - ①関係府省において、昨年策定された「EBPMアクションプラン2024」に基づき、政府全体のEBPMの取組を本格化すること
  - ②今年末に同プランの見直し・強化を行うこと
  - ③これらの成果を2026年度以降の骨太方針へ反映することなどが盛り込まれたところ。
- 今回のEBPMアドバイザリーボードでは、上記①に関して、昨年末に取りまとめられた「EBPMアクションプラン2024」に基づく検証の進捗状況を確認する。また、今後、10の重要政策・計画について、分析手法・活用データの具体化等をしていく上でのポイントの議論を行う。

(参考) 骨太方針2025 (抜粋)

(政府全体のEBPMの強化)

「経済・財政新生計画」の推進においては、限られたリソースから高い政策効果を生み出すことが重要である。このため、関係府省庁において「EBPMアクションプラン」に基づき、政府全体のEBPMの取組を本格化する。年末に同プランの見直し・強化を行うとともに、その成果を翌年度以降の骨太方針へ反映するなどEBPMを強化する。EBPM強化や分野横断的な施策の深化のため、行政記録情報を含めたデータの整備や「見える化」について関係府省庁間の連携を強化する。行政事業レビューとの連携を通じて、データ収集や分析・評価を一体的かつ効率的に進める。その際、行政事業レビューシステムの機能強化とAI技術を活用したデータの利活用を推進する。ビッグデータを用いた分析や指標の実用化を進める

# 政府全体のEBPMの強化に向けて②

- 前頁②の「EBPMアクションプランの見直し・強化」に関しては、本年8月7日に決定された「予算の全体像」（経済財政諮問会議決定）において、

本年末の同プランの見直しに向け、重要な改革項目である、

- ①2040年以降を見据えた介護提供体制の確保、
- ②急激な少子化の進行等を見据えた連携・再編・統合による高等教育の機能強化や規模の適正化を同プランの対象に加えるとともに、
- ③地方創生に係る同プランの内容について「基本構想」を踏まえ再検討する

とされたところ。

- このため、次回以降の会議（各WG等）において、上記の3つのテーマについても、ロジックモデルの作成・再整理を行い、EBPMに関する分析・検証を行っていくこととする。

（EBPMアクションプラン2024が対象としている重要政策・計画）

分野	重要政策・計画
社会保障	効率的な医療・介護サービスの提供体制の構築（地域医療構想、医師の偏在是正等）
	年齢・性別に関わらず生涯活躍できる環境整備
少子化・子ども	急速な人口減少に歯止めをかける少子化対策（子ども未来戦略）
文教	質の高い公教育の再生
科学技術	研究・イノベーション力の向上
社会資本整備	広域のまちづくり
地方行財政	地方創生2.0
防衛	防衛生産・技術基盤の維持・強化
多年度投資等 その他	2050年カーボンニュートラルに向けたGXへの投資（GX実現に向けた基本方針、GX推進戦略）
	半導体関連の国内投資促進

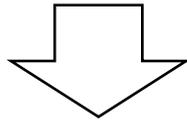
# 今後のスケジュール（案）

- 今回のEBPMアドバイザーリーボードで確認した「EBPMアクションプラン2024」に基づく検証の進捗状況を踏まえ、秋以降の取組を推進。
- また、併せて、「予算の全体像」で示された新しいテーマについてもロジックモデルを策定し、EBPMを推進していく。
- 経済・財政一体改革推進委員会及び各WG等での議論の内容については、今後開催される経済財政諮問会議へ報告し、来年度の骨太方針に反映。

8/19

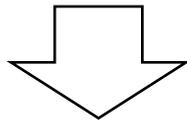
## 第21回 EBPMアドバイザーリーボード

- ・ 「EBPMアクションプラン」の進捗確認



秋以降

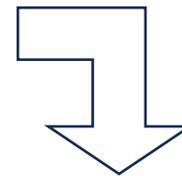
経済・財政一体改革推進委員会  
・各WG、EBPMアドバイザーリーボードを  
順次開催（複数回）



年末

「EBPMアクションプラン2025」へ改定

- ・ 翌年度以降の予算編成過程において反映



経済財政諮問会議

# 中長期の重要な改革項目（骨太方針2025より）

## 骨太方針2025（令和7年6月13日閣議決定）（抜粋）

### （1）全世代型社会保障の構築 （中長期的な介護提供体制の確保等）

医療・介護ニーズを抱える高齢者や独居高齢者が増加する中、要介護状態や認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、中長期的な介護サービス提供体制の確保のための方向性を2025年中にまとめる。具体的には、2040年以降を見据え、人口減少や高齢化の進展によるサービス需要の地域差に応じ、中山間地域での柔軟な対応など各地域で地域包括ケアシステムを深化させるための方策を整理しつつ、地域医療構想を踏まえた医療・介護連携や介護予防の強力な推進、質の高いケアマネジメントの実現を含めた多職種間の連携や相談体制の充実、介護テクノロジーの社会実装に向けた実証・導入・伴走支援による生産性向上、事業者間の連携・協働化や大規模化の経営改善の取組や、ワーキングケアラーへの対応など官民連携による介護保険外サービスの普及、外国人を含む介護人材の確保・定着を支援する。有料老人ホームの運営やサービスの透明性と質を確保する。

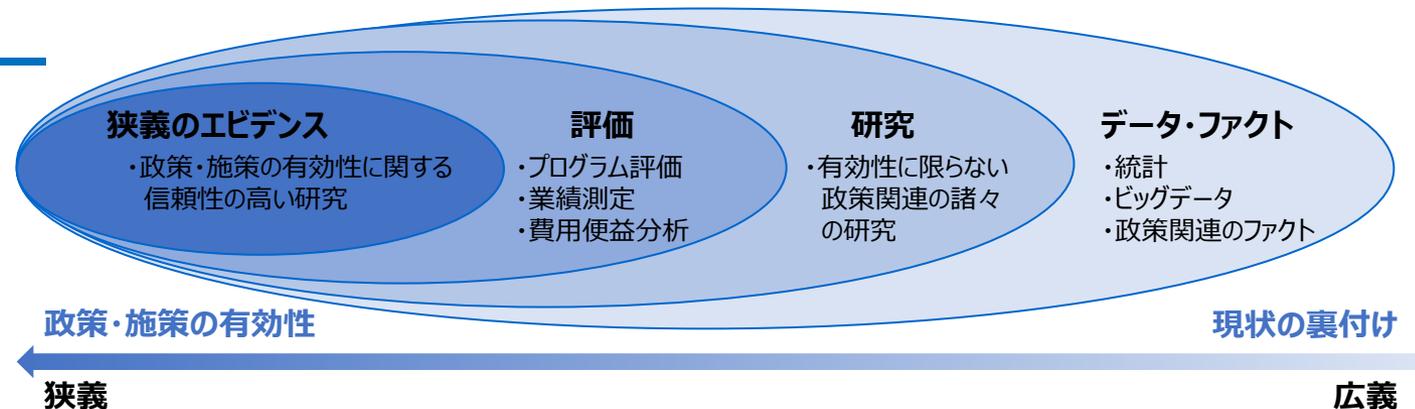
### （3）公教育の再生・研究活動の活性化 （質の高い公教育の再生）

急激な少子化の進行や地域の人口・産業構造の変化を見据え、高等教育へのアクセスを確保しつつ国公私を通じた大学の連携、再編・統合による機能強化や縮小・撤退による規模の適正化を進めるとともに、教育の質の高度化を進める。高等教育費の負担軽減に向け、拡充された修学支援新制度や授業料後払い制度を着実に実施するとともに、民間資金を活用した支援の拡充など、必要な検討を進める。

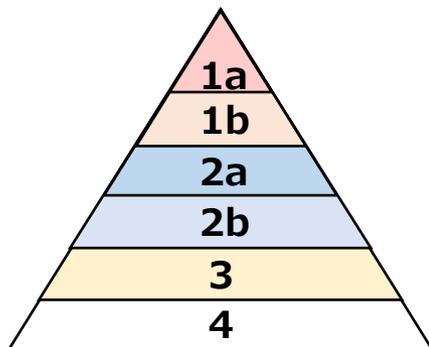
# エビデンス整備に向けた視点

- 重要政策等のEBPMに当たっては、政策目標を実現する上で鍵を握る課題や要因を特定したうえで、その解決のためのロジックモデルや関連施策が適切かつ効果的かを検証していく必要。
- 本委員会としては、最低限、下記レベル3（比較検証、相関研究、記述的研究）などのエビデンスを収集するとともに、よりエビデンスの質の高い分析を目指していく。

## エビデンスの範囲



## エビデンスのレベル



レベル	内容
1a	系統的レビュー、ランダム化比較実験のメタアナリシス
1b	ランダム化比較試験（RCT）
2a	差の差分析（DID）、回帰不連続デザイン（RDD）、操作変数法
2b	回帰分析、コーホート分析
3	比較検証、相関研究、記述的研究
4	専門家や実務家の意見（検討委員会による討議、パブリックコメント）